

授業科目 (ナンバリング)	調剤Ⅱ (事前学習) (NF414) (実践的教育科目)			担当教員	大磯 茂*・早川 正信*・室 高広*・神田 紘介*・ 大久保 伸哉*・中島 健輔*・藤井 祐樹 (*実務経験のある教員)		
展開方法	講義・演習・実習	単位数	3 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
卒業後、医療、保健活動に参画できるようになるために、薬局および病院における実務実習に先立って、院内製剤・薬局製剤、無菌操作、医療安全管理における感染予防に関する基本的知識、技能、態度を修得する。							①②④⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>代表的な疾患における注意すべき生活指導項目を列挙できる。</li> <li>患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足などを評価できる。</li> <li>院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理、薬局製剤・漢方製剤などについて説明できる。</li> <li>代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時の注意点を説明できる。</li> <li>感染予防の基本的考え方とその方法を説明できる。</li> <li>無菌操作の原理を理解し、基本的な無菌操作を実施できる。</li> <li>抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。</li> </ul>				筆記試験  実技試験	40%  40%	
情報収集、分析力							
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ討議により作成したプロダクトを適切に発表できる。</li> <li>他グループの発表に対し質問やコメントを適切にすることができる。</li> </ul>				グループ討議・プレゼンテーション	10%	
協働・課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> <li>提示された症例の問題点を指摘し、その解決策をディスカッションにより提案できる。</li> </ul>				課題レポート	10%	
多様性理解力	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者・利用者に配慮した適切な態度および行動ができる。</li> </ul>				観察記録	0～1.0 (評価方法参照)	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>筆記試験と実技試験から成る随時試験の結果、レポート、小グループディスカッション (SGD) およびその発表により評価する。</li> <li>筆記試験は、講義、演習・SGD および実習で行うすべての項目を出題範囲とする。</li> <li>実技試験は、衛生的な手洗い、スタンダードプリコーションのシミュレーション、基本的な無菌操作およびケミカルハザード回避手技のうち、指定する1つ以上の項目の手技の習得度を評価する。</li> <li>レポートは、SGD 実施日から1週間以内にポートフォリオに提出されたものについて、自分なりの視点をもって論理的に書かれているかを評価する。指定条件を満たさない場合並びに誤字・脱字は、減点の対象とする。</li> <li>レポートおよびポートフォリオ課題のフィードバックをポートフォリオで行う。</li> <li>観察記録は、指示事項の遵守度、身だしなみ、授業態度等を評価する。観察記録による態度等の評価は0～1.0の評価点に換算し、他の項目の評価点の合計に態度等の評価点をかけたものを最終の総合評価とする。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>病院または薬局における薬剤師としての実務経験を有する教員が、その経験を講義、演習・SGD 及び実習に活かし、5 月末から 7 月にかけて、講義、演習・SGD、実習が一体化した形式で授業を行う。必要に応じてプリントを配布する。SGD 後にレポート提出を課す。実習による授業内容については、事前に実習書を配布する。また、理解を深めるために、ポートフォリオへの演習問題の出題やその解説を行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、講義として行うものは112.5分、演習として行うものは45分、実習として行うものは45分とする。</p>							

教科書・参考書

教科書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤(東京化学同人):教科書①  
 スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践(東京化学同人):教科書②  
 参考書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅲ チーム医療及び地域の保健・医療・福祉への参画(東京化学同人)、  
 調剤学総論改訂13版(南山堂)、調剤指針第十四改訂(薬事日報社)  
 指定図書:スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅰ 臨床薬学の基礎および処方箋に基づく調剤(東京化学同人)  
 スタンダード薬学シリーズⅡ 7 臨床薬学Ⅱ 薬物療法の実践(東京化学同人)

授業外における学修及び学生に期待すること

医薬品が有効かつ安全に適用されるための院内製剤・薬局製剤、無菌操作、医療安全管理、患者の栄養状態・電解質の過不足の評価に関する知識、技能、態度を修得し、病院や薬局における実務実習につなげて欲しい。また、事前学習は実務実習前の準備学習であり、薬剤師としてのプロフェッショナルリズムの観点からの態度評価も重要視する。実習中における行動やふるまいなどに注意して受講してほしい。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習	到達目標番号*
1	患者・薬局者対応	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目(講義) (中島)	教科書① p170 ～181の予習、 配布プリントの 復習	948
2	臨床における心構え	患者・生活者の健康の回復と維持、生活の質の 向上と薬剤師の積極的な貢献(演習・SGD) (大磯・早川・室・神田・大久保・末廣・中島)	教科書① p11～ 25の予習、配布 プリントの復習	890
3	医薬品の供給と管理(1)	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理、 薬局製剤・漢方製剤(講義・実習) (講義:大磯、実習:全員)	教科書① p198 ～199の予習、 配布プリントの 復習	964、965
4	医薬品の供給と管理(2)	代表的な消毒薬の用途、使用濃度および調製時 の注意点(講義) (大磯)	教科書① p215 ～217の予習、 配布プリントの 復習	977
5	安全管理(1)	感染予防の基本的考え方とその方法(講義) (大磯)	教科書① p213 ～222の予習、 配布プリントの 復習	975
6	安全管理(2)	衛生的な手洗い、スタンダードプリコーション (実習) (全員)	教科書① p217 ～222の予習、 配布プリントの 復習	976
7	処方せんに基づく医薬品の調製(1)	基本的な無菌操作(実習) (全員)	教科書① p148 ～156の予習、 配布プリントの 復習	930
8	処方せんに基づく医薬品の調製(2)	ケミカルハザード回避の基本的な手技(実習) (全員)	教科書① p156 ～160と実習書 の該当部の予習	931
9	処方せんに基づく医薬品の調製(3)	医薬品の配合変化(実習) (全員)	教科書① p134 ～139と実習書 の該当部の予習	939
10	処方設計と提案	患者の栄養状態や体液量、電解質の過不足の評 価(講義・演習) (大久保)	教科書②の p71 ～73と実習書 の該当部の予習	1004
11	随時試験	筆記試験と実技試験		

注) 上記の第1回～第11回は、授業の概要を示したもので、講義の順番は変更される場合があります。

\*到達目標番号と到達目標の対応は、巻末のコアカリ SB0 番号/項目対応表を参照して下さい。